

いのうえ まさお
井上 正夫 (1881~1950)



俳優。^{しもうけな おおみなみ}下浮穴郡大南村(現、砥部町)出身。本名は小坂勇一。大阪の陶器商に奉公中、^{せいびだん}成美団の芝居を見て俳優を志す。帰省の折、松山新栄座で興行していた敷島義団に入り、初舞台を踏む。地方の劇団を転々とし、上京の折、真砂座の伊井蓉峰一座に加わり、「女夫波」によって人気を得る。一時、映画作りにも参加する。また、芸術的な大衆演劇を目指して井上演劇道場を作り、後進の指導養成と商業演劇の向上にも努める。終生、セリフの伊予なまりは抜けず、リアリズムを根底とした演技は魅力的で、舞台に大きな包容力があつた。

略歴

- | | |
|------------------|---|
| 明治14(1881)年6月15日 | 下浮穴郡大南村に生まれる。 |
| 明治29(1896)年 | 道頓堀角座で座関西新派の成美団が上演の「百万円」を観る。 |
| 明治31(1898)年 | 敷島義団に入り、小坂幸二の芸名で初舞台を踏む。
矯風会に入会し、品川進と改名
大成団に入団し、酒井政俊の弟子となり、井上政夫と改名 |
| 明治33(1900)年 | 大阪道頓堀、弁天座上演の「当りの」で大部屋に昇進する。 |
| 明治37(1904)年 | 真砂座で伊井蓉峰一座に出演する。名を井上正夫に改める。 |
| 明治43(1910)年 | 新時代劇協会を結成し主宰する。第1回公演には有楽座でバーナード・ショーの「馬盗坊」などを上演 |
| 明治45(1912)年 | 井上一座、伊予郡砥部村(現、砥部町)の大宮八幡神社で「真の鏡」などを上演 |
| 大正7(1918)年 | 新富座において新派劇団を結成 |
| 大正9(1920)年4月 | 国際活動映画株式会社に入社 |
| 昭和11(1936)年 | 井上演劇道場を開設 |
| 昭和21(1946)年 | 井上演劇道場を解散し、新協劇団に入る。 |
| 昭和24(1949)年4月 | 日本芸術院会員となる。 |
| 昭和25(1950)年1月 | 新橋演舞場の新派大合同で「恋文」に出演、最後の舞台となる。 |
| 2月7日 | 68歳で永眠 |

(写真提供：砥部町教育委員会)

〈関連図書〉

- ・井上正夫『化け損ねた狸』 右文社 1947年
- ・越智二良『愛媛の先覚者たち1 井上正夫』 愛媛県教育委員会 1965年
- ・井上正夫生誕百年祭実行委員会『井上正夫追憶集』
砥部町教育委員会社会教育課内井上正夫会事務局 1980年
- ・井上正夫生誕百年祭実行委員会『井上正夫遺墨集』 1980年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第5巻 森律子・井上正夫・伊丹万作』
愛媛県教育会 1984年
- ・上田雅一『舞台大変 名優井上正夫伝』 創風社出版 1993年
- ・『発掘えひめ人ー近代を拓いた101人ー』 愛媛新聞社 2002年
- ・『愛媛人物博物館 人物探訪第5集』 愛媛県生涯学習センター 2003年

〈主な収蔵資料〉…(P229, 150~151)

〈ゆかりのある場所〉…(P316~317, 212~214)

〈関連施設〉…砥部町文化会館

〒791-2120 愛媛県伊予郡砥部町宮内1410番地 TEL: 089-962-7000